慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

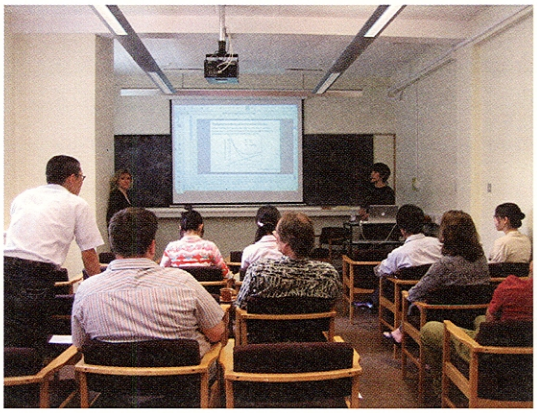
Title	Keio-Cambridge joint seminar
Sub Title	
Author	伊澤, 栄一(Izawa, Eiichi)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2007
Jtitle	活動報告書 Vol.1, (2007.) ,p.17- 17
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章：シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20080300-0017

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

3 Keio-Cambridge Joint Seminar

開催日　2007年8月1日、2日
企画班　国際教育研究プログラム
企画者　伊澤栄一
発表　Trevor Robbins, Anthony Dickinson, Nicky Clayton, Nathan Emery (Cambridge)、伊澤栄一（塾内）

8月1、2日にCambridge大学Downingカレッジにて、Keio-Cambridge Joint Seminarが行われた。本拠点と同大学比較認知研究室から大学院生が各4名が参加し、日頃の研究成果についての発表と議論を行った。参加教員は、Trevor Robbins、Anthony Dickinson、Nicky Clayton、Nathan Emery、伊澤栄一であった。各院生には、それぞれ約1時間の持ち時間が与えられた。とかくピアノの発表会になりがちな学会発表とは異なり、データ発表にとどまらず、関連研究のレヴューと今後の展望まで含めた研究の位置づけを明瞭にメッセージとして構成し、関連研究の第一線で活躍する同大の教員陣を前に、発表することが要求された。院生達は、その準備に相当な労力を要したが、それが十分に伝わり、ケンブリッジ側の院生、教員から、率直なコメントが院生たちに直接投げかけられた。休息時間には、次第に院生達も半ば開き直ったのか（！）、質問や実験そのものの相談など積極的なコミュニケーションを図る姿勢が大変印象的であった。2日目午後に行われたラウンドテーブルでは、与えられたテーマと各自の研究をいかに結びつけて発言するかという点で、まだまだ力不足は垣間見えたものの、それらも含め、大変有意義な2日間であった。

（伊澤栄一）